環 境 教 育

学校教育における環境教育

守谷市教育委員会

【国際的視点】
地球環境会議 ベオグラード憲章 アジェンダ 21 京都議定書 コペンハーゲン合意
【県教育指導方針】
環境教育の充実 ＜三つの視点＞ 「環境から学ぶ」 「環境について学ぶ」 「環境のために学ぶ」
【関係法令】
環境基本法 環境基本条例 学習指導要領

【目　　標】

環境問題に関心をもち，環境に対する人間の責任と役割を理解し，環境保全に参加する態度及び環境問題解決のための能力を育成する。

【具体的視点】

関　　心：全環境とそれにかかわる問題に関する関心と感受性を身に付けること
知　　識：全環境とそれにかかわる問題及び人間の環境に対する厳しい責任や使命についての基本的な理解を身に付けること
態　　度：社会的価値や環境に対する強い感受性，環境の保護と改善に積極的に参加する意欲などを身に付けること
技　　能：環境問題を解決するための技能を身につけること
評価能力：環境状況の測定や教育のプログラムを生態学的・経済的・社会的美的その他の教育的見地にたって評価できること
参　　加：環境問題を解決するための行動を確実にするために，環境問題に関する責任と事態の緊急性についての認識を深めること

	小学校	中学校・高等学校
ね　ら　い	児童が身近な環境に意欲的にかかわり，問題を見いだし，考え判断し，よりよい環境づくりや環境の保全に配慮した望ましい行動がとれる態度を育てること ① 豊かな感受性を育成すること ② 活動や体験を重視すること ③ 身近な問題を重視すること	環境問題の解決は，人類共通の課題であり，他人事ではなく自分自身にも関係があることを理解し，積極的に環境に働きかける態度を育てること
身に付けたい能力と態度	① 環境に対して積極的にかかわり，環境保護や環境促進に対する意識や態度など ② 環境とかかわり，それについて考えたり，判断したりする思考力や判断力，及び表現力など ③ 環境にかかわって課題を見付けたり，解決したり，創造したりするために必要な知識や技能など	① 問題解決能力 ② 数理的能力 ③ 情報処理能力 ④ コミュニケーション能力 ⑤ 環境を評価する能力 ⑥ 自然や社会事象に対する関心，意欲，態度 ⑦ 主体的思考 ⑧ 社会的態度 ⑨ 他人の信念，意見に対する寛容

学校全体での取組み	各教科，道徳，特別活動及び総合的な学習の時間での実践 ・自然体験や社会体験活動の積極的導入 ・各教科等の環境教育関連単元の指導計画の作成 ・道徳「主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること」 ・外部人材等の積極的活用 ・総合的な学習の時間・・・各学校の創意工夫
学校教育，家庭教育，社会教育の連携	地域社会の自然探索会や美化活動等への積極的参加の推奨
発達の段階に応じた体系的な教育	「持続可能な開発のための教育（ESD)」の視点による位置付け
地域の実態に応じた取組み	「Think Globally, Act Locally」（地球規模で考え，足元から行動する）

環境教育の実践

守谷市立大井沢小学校　担当　小林　亜伊李

1　はじめに

本校の環境教育の目的は，「人と環境との関わりについて学ぶ」「豊かな環境とその恵みを大切にする心を育てる」である。具体的な取り組みとして，一つ目は各教科，特別活動，総合的な学習の時間の中での位置づけを明確にして，その中で指導の充実を図っていくこと，二つ目は自然体験などの活動を通して，環境に対する豊かな感性を育成していくことである。この二つを実現するために，今年度の実践してきた。

2　実践

（１）学校美化活動

ア　美化活動
　学年花壇を使って，草花の栽培，除草，整備
イ　大掃除週間の設定・実施（学期末）
ウ　無言清掃強化週間（毎月１週間）

（２）児童会活動

ア　学年による清掃活動
イ　環境美化委員会「学校花壇や草花のプランターの整備」
　「無言清掃強化週間カード」
ウ　飼育委員会「ウサギや魚の飼育」
エ　保健委員会「流しやトイレの清掃点検」「健康名人積み立て帳」
オ　広報委員会「正門掲示板の予定表作り，環境に関するポスターの掲示」
カ　給食委員会「配膳台の整理整頓」「完食者調べ」
キ　ボランティア委員会「緑・赤い羽根募金活動（ポスター，手紙による啓発活動）」
　「毎朝の落ち葉はき清掃活動」
　「ペットボトルのキャップ回収」
　「複十字シール，はがきの募金呼びかけ」

（３）環境教育の啓発

ア　愛農活動「野菜や草花の栽培」
イ　各種作品募集への参加
ウ　教室や図書室の整備，自由研究作品の掲示
エ「はばたき」池田先生による，環境教室「大井沢の自然について」「ハヤブサ講座」の開催

（４）ＰＴＡ活動

ア　年４回の除草作業（ＰＴＡ整備部，職員，児童参加）
イ　ベルマーク集め（各教室にベルマーク箱の設置，回収・集計）
ウ　使用済みカートリッジ，書き損じはがきの回収

（５）国語科，生活科，理科，社会科，総合的な学習の時間における取り組み

学　年	教科・領域	学　習　内　容
第１学年	生活科 ＊ＯＨＬ＝大井沢ヒューマンライブラリー　（人材	・一人一鉢での栽培と観察（アサガオ、チューリップ） ・野菜の栽培と観察（なす，ミニトマト） ・校庭，四季の里公園・板戸井公園での植物や昆虫などの観察・ふれあい（季節ごとに）

	バンク） 国語科	・落ち葉や木の実を使った制作とお店屋さん ・小動物とのふれあい（東武動物公園にて）
第２学年	国語科 生活科	・夏野菜の栽培 ・柿もぎり（地域の農園の協力で） ・立沢里山での生き物さがし（ＯＨＬを活用して） ・校庭での植物や昆虫などの観察・ふれあい ・「ビーバーの大工事」を通して生き物の生態や環境を考える
第３学年	理科 社会科 総合的な学習の時間	・モンシロチョウの観察 ・オクラ，ひまわり，ホウセンカの観察 ・「みるく館」の見学 ・大井沢の生き物（植物・鳥・虫）についての体験活動（ＧＴの活用）
第４学年	総合的な学習の時間 社会科　理科 国語科	・常総環境センター，上下水道組合の見学 ・生き物を調べよう（年間を通して） ・いろいろな環境を守る工夫について調べよう
第５学年	総合的な学習の時間 国語科　社会科 理科	・立沢里山（田んぼ）での米作り体験 ・「動物の体と気候」 ・「わたしたちの国土」「わたしたちの生活と食料」 ・「生命のつながり」インゲン豆の栽培，観察等
第６学年	国語科　理科 図工　家庭科 総合的な学習の時間	・「イースター島にはなぜ森林がないのか」 ・「生物と地球の環境」ジャガイモの栽培・観察等 ・環境についてのポスター作成，コンクールへの参加 ・「工夫しようさわやかな生活・暖かな生活」 ・「わたしたちの未来について（環境問題）」討論会 ・エコクッキング教室（東部ガス）の開催

3　考察

○　保護者，ＯＨＬ，地域の方々の協力により，身近な自然との関わり方や自然の大切さ，素晴らしさを知り，楽しく積極的に活動することができた。

○　低学年では，動植物とのふれあいを通して，自然に親しみ，身近な自然を大切にしようとする心を育てることができた。

　中・高学年では，地域の人々と一緒に活動しながら，大井沢地区や守谷市の環境について知ることができ，それをを守るために，自分たちができることを真剣に考えていく態度を育てることができた。

○　今年度から，全学年が「無言清掃カード」や「健康名人積み立て帳」「完食調べ」を活用して，取り組み状況を記録している。記録をすることで，児童一人一人の取り組みがよくなってきた。

4　課題

　子どもたちには，できるだけ多くのよい体験を積ませたい。さらに，幅広くかつ効果的な体験活動ができるように，地域や児童の実態に合わせて年間指導計画を見直し，身近な自然や地域の環境を活用した教材の開発，人材の発掘を行い，本校の環境教育の目的の実現に向けて，各活動をさらに充実させていきたい。

環境教育の実践

守谷市立大野小学校　担当　小泉　正子

1　はじめに

本校では，環境教育の充実のため，計画的に実践活動を行ってきた。学年の発達段階に応じて体験活動を積み重ねることで，生き物や自然を大切にする態度や，身近な環境をよりよいものにしていこうとする態度を育てるようにしている。

本校の環境教育のねらい

・身近な環境の様子や問題等に関心をもち，環境に対する豊かな感受性を育てる。
・児童の発達段階に即して，環境問題等を改善しようとする態度や心情を育てる。
・草花の栽培や，動物の飼育活動を通じて，実践する力と意欲を育てる。

2　実践

（1）　学校全体での取り組み

①　児童会活動

・飼育委員会を中心にウサギの飼育活動を行う。
・園芸委員会で花壇の整備を行う。
・委員会活動や児童有志による落ち葉掃きを行う。

②　環境に関する啓発活動

地球温暖化と省エネ対応に関した取り組みを行う。

・休み時間や給食時の消灯をこまめに行い，無駄な電気を消す。
・各種環境啓発ポスターへの積極的な応募を行う。

③　PTA 活動

・ベルマークの収集を行い，備品を購入する。
・校内奉仕作業（年１回）を行う。

④　米づくりやサツマイモの栽培

全児童で米づくりやサツマイモの栽培に取り組み，秋の収穫祭で米づくりに関する発表を行い，収穫を祝って餅や焼き芋を食べる。

（2）　各学年での取り組み

①　１年生

・アサガオやチューリップの栽培と観察をする。（生活科）
・落ち葉や小枝を使った作品づくりをする。（生活科）
・稲の種まきをする。（生活科）

②　２年生

・ミニトマトの栽培をする。（生活科）
・生き物の飼育観察をする。（生活科）
・稲の種まきをする。（生活科）

③　３年生

・モンシロチョウやアゲハチョウの飼育と観察をする。（理科）

・ヒマワリやホウセンカの栽培と観察をする。（理科）

・スーパーマーケット，地域の工場の見学をし，リサイクル等の実践と工夫を知る。（社会）

・脱穀の体験をする。（総合）

④　４年生

・ツルレイシの栽培と観察をする。（理科）

・上下水道事務所の見学を行い，環境新聞作りをする。（社会）

・米づくり…種まきから収穫まで「大野小協力の会」「大野地区田園環境保全活動組織（POP)」の方々の指導を受けながら，半年かけて体験する。（総合）

⑤　５年生

・インゲン豆の栽培と観察をする。（理科）

・田植えを行う。（総合）

・学区内河川敷のクリーン作戦を行う。（総合）

・様々な環境問題について調べ，環境新聞作りを行う。（総合）

⑥　６年生

・ホウセンカ，インゲン豆の栽培と観察を行う。（理科）

・稲刈り，おだがけを行う。（総合）

〈米づくり体験～脱穀籾すりの様子〉

〈サツマイモ畑の草取りの様子〉

３　考察

・　全校で米づくりに関わり，各学年で植物を育てる活動や身近な生き物を飼育する活動に取り組むことで自然に親しんだり，自然を大切にしようとしたりする態度を育てることができた。

・　委員会活動を中心とした校内の環境整備や有志による落ち葉掃き等の活動により，ボランティアの精神を育むことができた。

４　課題

・　環境問題に関心をもち，身近な自然を大切にしようとしたり環境を守ろうとしたりする意識を高めるための取り組みや，学校や家庭で実践していくための取り組みの工夫をする必要がある。

環境教育の実践

守谷市立高野小学校　担当　竹久　智子

1　はじめに

本校は豊かな自然に恵まれている。校庭の東側からは広大な水田を眺められ，四季折々の景色を楽しむことができる。校庭の南側には山があり，自然の中で急な斜面をロープを伝って登ったり，山の隣の広い斜面で芝滑りをしたりすることができる，児童に人気のある場所である。こうした身近な自然と触れ合う体験を通して，自然環境への興味・関心を高めるとともに，自主的・積極的に環境保全活動に取り組むことができる児童の育成を目指して環境教育を進めてきた。

2　実践

（1）各学年の取り組み

①　低学年

低学年では，生活科の学習を中心に体験活動を取り入れている。校庭の山で遊んだり，校庭や近隣の公園を探検して四季の変化に気付いたり，一人一鉢栽培でアサガオなどを育てたり，野菜を育てたりする活動を通して，自然の豊かさや楽しさ，大切さを感じることができた。近くの用水路でザリガニつりをした際には，地域の方の協力も得られ，充実した活動になった。

２年　生活科
「春を探そう」

１・２年　生活科
「公園探検」

２年　生活科
「野菜を育てよう」

②　中学年

中学年では，理科や社会科，総合的な学習の時間において環境教育を取り入れている。理科では，生物と環境とのかかわりを学習し，社会科や総合的な学習の時間では，３年生の「高野史跡めぐり」や「町探検」，４年生の「常総環境センター」や「上下水道」の学習を通して，故郷の自然を大切にする心の育成に取り組んでいる。

３年　社会科
「町探検」

４年　社会科
「常総環境センター見学」

４年　社会科
「水道事務所見学」

③　高学年

高学年においても，理科や社会科，総合的な学習の時間に環境教育を取り入れている。理科では，植物の成長や動物の誕生の学習を通して，植物や動物が自然と深いかかわりがあることを学習し，社会科では，自然環境が人々の生活や産業と密接に関連をもっていることを学習した。ま

た，総合的な学習の時間の「米作り体験」では自然を生かした作業の中で，人々の努力や苦労についても気付かせながら自然に対する関心を高め，自主的・積極的に環境保全活動に取り組んでいこうとする児童の育成を目指してきた。

５年　総合的な学習の時間　「米作り体験」

（２）児童会活動の取り組み

①　委員会活動

４つの委員会において，環境教育に深くかかわった活動を行っている。各委員会とも，児童の自主性を大切にし，児童の話し合いをもとにして活動内容を決定している。

ア　栽培委員会

・　花壇・プランターの整備　・フラワー集会

イ　ボランティア委員会

・ペットボトルキャップ回収

・緑の羽根募金活動

ウ　飼育委員会　・生き物の飼育

エ　環境委員会　・校内落ち葉掃き　・校内環境美化

飼育委員会（コジュケイの世話）

②　クラブ活動

野外活動クラブでは，自然環境を生かした様々な活動を行い，児童の自然環境への興味関心を高めている。

・春　校内・校外探検

・夏　ザリガニつり

・秋　魚釣り・芝滑り（校庭の山）

・冬　スモーク作り

野外活動クラブ（ザリガニつり）

３　考察

恵まれた自然環境を活用して，各学年とも発達の段階に応じた学習を取り入れることができた。低学年では，自然と触れ合う遊びや植物の栽培活動などの体験活動を通して，児童は自然環境へ興味・関心をもつことができた。中学年では，地域の史跡や歴史を学習する中で，地域のボランティアの方々の協力を得て，故郷の自然を大切にする心をはぐくむことができた。また，市内の公共施設の見学を通して環境を守ることの大切さも学習することができた。高学年では，各教科の学習や米作り体験活動，児童会活動を通して，自然環境が自分たちの生活に深くかかわっていることを学び，進んで環境保全に努めていかなければならないという意識を高めることができた。

４　課題

環境教育は，児童の発達の段階によって身に付けるべき能力があり，６年間を見通した学習となるよう学年間・教科間での連携を図っていくことが重要であると考える。また，環境保全のための取り組みも，低学年のうちから発達の段階に応じて身に付けさせていきたい。そのためにも，家庭や地域社会とのより一層の連携を図っていきたい。

環境教育の実践

守谷市立守谷小学校　担当　鈴木　愛香

1　はじめに

本校は，新校舎での生活が始まってから，約１年が経過した。児童の健康安全や環境に配慮した校舎で，木の香りや温もりを感じることができる。しかし，校舎は完成したものの，校庭は工事中であり使用が制限されている。

限られた環境の中でも各教科や総合的な学習の時間などを通して環境教育に取り組んできた。

2　実践

（１）　学校全体の取り組みについて

委員会活動	栽培	・花壇の管理（除草，水やり）・落ち葉掃き ・パンジー，サルビア，マリーゴールド植え
	美化	・校舎周り清掃 ・朝の昇降口，渡り廊下清掃
	整備	・校内除草，落ち葉掃き活動 ・各学級の掃除用具入れの点検
	ボランティア	・手足の不自由な子どもを育てる運動 （友情の絵はがき） ・緑の羽根募金活動，赤い羽根募金活動 ・エコキャップ運動
ボランティア活動		・校内石拾い ・八坂神社境内の落ち葉掃き活動

～カブト虫 Project～

自然体験・科学的な体験の充実を図ることを目的に，カブトムシ Project が実施された。

カブトムシの飼育体験を継続して実施することにより，生命尊重の心を育て，生き物に対する興味・関心を高め，飼育の過程で生じるさまざまな課題に創造的に取り組める資質を育てて生きたい。

【４月】
堆肥ゲージの再建
飼育マニュアルの作成

【５～９月】
幼虫の購入・飼育・放虫

【10～３月】
越冬

【３月中旬】
クヌギの植樹

（２）　各学年の学習での取り組みについて

学　年	教科・領域	学　習　内　容
第１学年	生活科	・一人一鉢（アサガオ，チューリップの栽培） ・小動物とのふれあい（校外学習東武動物公園） ・森林公園探検…春・秋（虫や草花と遊ぼう） ・アサガオのリース作り
第２学年	生活科	・ミニトマトの栽培 ・生き物とのふれあい ・町探検
第３学年	総合的な学習 社会科 理科	・見つけよう！守谷のひみつ（学区探検，八坂神社） ・小さな鳥の資料館（守小まつりでの触れ合い） ・校外学習（アサヒビール工場などの見学） ・モンシロチョウの観察と飼育 ・ホウセンカ，ひまわりの観察と栽培 ・筑波山での自然体験

学　年	教科・領域	学　習　内　容
第４学年	総合的な 学習 理科 社会科 図画工作科	・キッズミッションへの取り組み ・環境に関する新聞作り ・ツルレイシの観察と栽培 ・水道事務所見学，消防署見学 ・常総環境センター見学 ・木々を見つめて
第５学年	総合的な 学習 社会科 国語科 理科	・バケツ，花壇，ペットボトルでの稲栽培 ・八坂神社の清掃 ・日野自動車見学 ・わたしたちの生活と環境，米作りの盛んな庄内平野 ・森林のおくりもの ・植物の生長
第６学年	国語 家庭科 理科	・「未来に生かす自然エネルギー」の学習で持続可能な社会への取り組みを調べ，リーフレットにまとめた。 ・自然と生き物の関わり新聞発行「わたしたちの生活と環境」 ・自分ができることを見つけてやってみよう （生活から出るゴミ、排水を少なくしよう） ・ジャガイモの栽培

第１学年「春の公園探検（森林公園）」

第３学年「見つけよう！守谷のひみつ」

第４学年「木々を見つめて」

第５学年「稲栽培（脱穀）」

（３）職員研修での校内植生調査

昨年度の課題として，教職員の意識の高揚を図るということがあげられていた。そこで，講師を招き，植生調査を行い，植物の特徴や名前の由来などの研修を行った。敷地内には，以前から生えている大木や，校舎を建て替えた際に植えた木が多くあり，敷地内には，約４０種類の樹木があることがわかった。今後，職員で児童に分かりやすく興味を持てるラベルを作ることを予定している。

3　考察

校庭が工事中で，外に出る機会が少なかった。しかし，全校で，カブトムシ Project に取り組んだことで身近な動植物に興味を持つ児童が増えてきた。町探検や公園探検をしたことで，その後も公園に積極的に遊びに行くなど，地域の自然に興味を持つ児童が増えてきた。

来年度は，グランドが完成し，さまざまな植物のラベルをつけることも予定されている。校外だけでなく，敷地内へ目を向けるようにしていくことが重要と考えられる。

4　今後の課題

・環境教育に対する理解を深め，学校全体として取り組んでいく。
・引き続き，教職員の意識の高揚を図る。

環 境 教 育 の 実 践

守谷市立黒内小学校　　會田　勝弘

1　はじめに

本校では，「環境教育の全体計画」をもとに，教育活動全体を通して，環境教育に取り組んできた。特に豊かな自然環境を身近に感じ，親しみをもち，大切にしていこうという心を育てていくために，体験活動が重要であると考えて取り組んできた。

2　実践

（1）学校全体としての取り組み

<table>
<tr><td>行事</td><td>黒内まつり</td><td>・秋に行う黒内まつりでは，学習発表会，親子ふれあい体験，バザー等を実施している。その中でも親子ふれあい体験は，環境教育を意識し，取り組んでいる。１５のコーナーを設置し，それぞれ地域の方々にゲストティーチャーとして，指導をお願いしている。ガス管を利用しての万華鏡や，廃材を利用しての鉛筆作り，ペットボトルを入れ物として利用したフラワーアレンジメント等，環境とリサイクルについて考える良い体験になっている。

 </td></tr>
<tr><td>委員会活動</td><td>園芸委員会

運営委員会</td><td>・本校にはたくさんの花壇があり，花の植え替えや草取り等，園芸委員会の児童が中心になって活動している。
・本校の敷地内には，桜や銀杏等の大きな木があり，秋には運営委員会の児童が中心となり，また高学年の児童がボランティアとして加わり，朝の清掃活動に取り組んでいる。
・エコキャップ回収や，緑の羽根募金活動に取り組んでいる。</td></tr>
</table>

（２）教科・領域での主な取り組み

【理　科】

○３年　・「自然を観察しよう」…学校のまわりの植物調べをした。

○４年　・ツルレイシの観察…グリーンカーテン作りに挑戦した。一人一鉢で育てた苗を，花壇に移植して名札をつけ，毎日観察をしながら世話をした。秋には２階に届くほどに生長した。

【社　会】

○３年　・「市の様子」…昔と今の市の様子を比べて，森林が減ってきていることや，道路の拡張，ＴＸや高速道路が通ったこと，市街地の拡大を知り，自然がなくなることと，便利になることはつながっていることを考える学習になった。

【生活科】

○２年　・学年の畑で，ピーマンやナス等の夏野菜を育てた。また一人一鉢でミニトマトを育てた。

・身近な生き物について，校庭や裏庭で生き物を探し虫取りをした。

・水道事務所へ探検に行き，水の大切さを学んだ。

【総合的な学習の時間】

○４年　・山ゆりの会の人と一緒に，森林公園に看板を立て，山ゆりの保護活動を行った。

○５年　・米作りの体験学習を行った。昨年は，バケツ稲作りを行っていたが，田植えや稲刈り等，守谷の自然環境を生かした米作りが，どのように行われてきたかを体験するため，花壇を田んぼに改良して活動した。

３　考察と課題

これらの活動は，児童にとって興味をもち，楽しみながら学習することのできた時間であると考える。毎朝，登校するとツルレイシを観察しながらグリーンカーテンの裏を涼しそうに通る子供たちの姿。また，昇降口前に作った田んぼに立ち止まり，稲の生長を毎朝観察する子供たちの姿を見ることで実感できた。自然に親しみながら，多くの体験をすることで，環境に対する意識は高まってきていると考えている。

しかし，今後多くの転入児により全校児童数が増え，特に黒内まつりでは，これまで行ってきた体験学習が難しくなってくることが予想される。今まで実践してきたことを可能な限り残し，また新たに実践できるものを探して，黒内小らしさを追及していくことが今後の課題といえる。

環　境　教　育　の　実　践

守谷市立御所ケ丘小学校　担当　廣瀬　幹郎

1　はじめに

本校の環境教育は，ねらいを明確にし体験的な活動を積み重ねることで，生き物や自然を大切にする態度や身近な環境を自分たちの生活と結び付けて見つめ，より良くしていこうとする実践的な態度の育成をめざした実践している。

本校が目指す児童の姿は次のとおりである。

○低学年

・自然に親しみ，自然のよさの体験を通して知る。

・植物の世話を通し，生命の尊さを知る。

○中学年

・身近な地域の自然に触れ，進んでよりよい環境にしようとする。

・資源の有限性を知り，ものを大切にする必要性を知る。

○高学年

・自然の生態系を学習し，環境を保全・改善しようとする。

・身近な環境問題に関心を持ち，進んで解決方法を考え実践する。

2　実践

（1）学校全体での取り組み

①　各学年での活動

・学校花壇，学年花壇の草花の栽培と除草作業

・３～６年生による，校庭及び街路樹周辺の落ち葉はきボランティア活動

②　委員会活動（環境教育に関するもののみ）

・園芸委員会・・・学年花壇作り準備，学校花壇作り，除草，水まき

公園の里親事業（除草，落ち葉はき）

１年生　アサガオ栽培

（2）各学年での取り組み

①　１年生

・アサガオ・チューリップの栽培と観察

・校内，通学路での自然観察

・立沢公園での自然に親しむ活動

②　２年生

・夏野菜の栽培収穫と観察

・春や秋の町探検での自然観察

２年生　市内　自然体験

③　３年生

・オクラ栽培

・ホウセンカやヒマワリの栽培

・モンシロチョウの飼育

＜３年生のオクラ栽培＞

④　４年生

・ツルレイシの栽培とみどりのカーテン

・常総環境センターや浄水場の見学

・環境問題についての調べ学習

＜４年生の環境センター訪問＞

＜４年生の環境問題調べ学習＞

⑤　５年生

・「里山における３小学校合同の米作り」活動への参加

・収穫した米を使っての家庭科調理実習

・総合的な学習の時間における食の大切さをまとめる学習

・ジャガイモの植え付け体験

⑥　６年生

・ジャガイモの栽培と観察

・環境やエネルギーについての学習

＜５年生田植え教室＞

３　考察

児童一人一人が環境に関わる身近な活動を通して，自分たちを取り囲む環境に親しみを持ち，大切にしようとする態度が育ってきている。低学年では身近な野菜の栽培や公園探検などを通し，自然の美しさや豊かさを感じる心情が育ち，高学年は生活と環境との関わりを真剣に考えていく態度が育ち，環境を守るために自分たちにできる活動を考え，落ち葉はきなど奉仕活動を進んで行うことができた。

４　課題

（１）効果的な体験活動を取り入れた年間指導計画の見直しと具体的実践活動の工夫

（２）教科，総合的な学習の時間，道徳，特別活動と環境教育との関連の明確化と教材の開発・実践

（３）直接的な自然体験の実施方法や，環境問題に取り組む専門家や地域の人々などのゲストティーチャーの活用方法

環　境　教　育　の　実　践

守谷市立郷州小学校　担当　木澤じゅん子

1　はじめに

本校では，環境教育を以下の目標で実践している。

（１）環境とそれに関わる問題に気付き，関心を持つとともに，環境保全のために必要な知識・技能・実践する態度を育てる。

（２）ボランティア活動や特別活動などの体験を通して，環境保全に関しての実践活動力を身に付けさせる。

（３）道徳教育や各教科との関連を図り，地域の環境や校外学習での体験を通して，自然の美しさや偉大さを知り，自然を愛する豊かな心を育てる。

2　実　践

（１）学校美化活動

ア　美化活動

・校内にある花壇での草花栽培，除草，整備

イ　郷州ピカピカ大作戦

・学級ごとに毎学期末の大掃除週間

ウ　各教室・通路の環境整備

・各学年で行った環境に関する学習の振り返り等をパネルにまとめ,各教室や通路，サポータールーム・会議室等に掲示

エ　教科に関連した活動

・各教科に環境に関する内容がある。その発展として環境活動を行う。

（２）児童会活動

ア　福祉委員会　　エコキャップ回収，緑の羽根募金，ベルマーク回収・整理

イ　給食委員会　　給食用ストロー袋の回収，配膳台の整理整頓

ウ　栽培委員会　　草花の栽培とプランター作り・水やり，栽培用具の整理整頓

エ　計画・集会委員会　昇降口の整理整頓と掃除

オ　縦割り班活動（キッズ活動）

クリーン作戦　校舎内の廊下や階段，昇降口の清掃。各家庭で使わなくなったスポンジやタオルなどを持参し，清掃に活用。

（３）ＰＴＡ活動

ア　円形花壇の整備

ＰＴＡの協力のもと，ﾏﾘｰｺﾞｰﾙﾄﾞ･ｻﾙﾋﾞｱの苗を植えてもらい，花壇が整備された。

イ　環境整備委員会やＰＴＡの協力のもとに，校舎内の廊下や階段に七夕短冊や文学関連の掲示物を作成・掲示している。

ウ　ベルマークの回収・集計

各教室にベルマークの箱を設置し，月１回回収・集計している。

（＊この活動は，児童による福祉委員会と協力し実施）

（４）地域交流

公園里親事業として学校隣のみずき野中央公園に，サルビアやパンジーの花を植えたプランターを育て設置した。栽培委員のボランティア活動として実施され，地域の環境美化と交流を促進し，植物を大切にする心を育てることができた。

（５）学習活動

国語科，生活科，理科，社会科，総合的な学習の時間における取り組み

学　年	教　　科	活　動　内　容	地域・サポーター等 機関連携
１学年	生活科 図　工	・アサガオを育てよう ・学校探検 ・学校紹介(みずき野幼稚園児に) ・アサガオのリースを作ろう ・秋の落ち葉で小物作り	・保護者 ・みずき野幼稚園
２学年	国　語 生活科	・野菜を育てよう （ミニトマト，キュウリなど） ・町探険 ・学校の春夏秋冬をみつけよう	・スクールサポーター ・保護者

３学年	総合的な学習	・町探検をしよう ・野鳥観察会 ・盲導犬について	・保護者 ・ゲストティーチャー
４学年	総合的な学習	・《見つめよう！地球のためにできること》 をテーマに新聞作り ・親子でゴミを仕分けよう。	・親子活動 ・市役所生活環境課の方
５学年	社会 国語	・バケツ稲作り ・環境問題リーフレット作り（地球温暖化，外来生物，大気と水，脱原発など）	・スクールサポーター
６学年	家庭科 国語	・いらない服を利用した服のリフォーム ・再生可能エネルギーの文章を読み，「未来に生かすエネルギー」について話し合う。	・親子活動 ・スクールサポーター

（６）実践例　　第４学年「ごみダイエット大作戦」

親子活動で「ごみダイエット大作戦」を行った。目的は，「資源を大切にし環境に対する意識を高めるための親子活動」である。

市役所の生活環境課の方に守谷市のごみ分別方法について丁寧に講義してもらい，学んだことや学校の社会科の学習で学んだことを生かして，親子でごみの分別をした。

分別後，市役所の方にチェックしてもらったので，分別方法を目の前で学ぶことができた。

家庭でもごみ分別のことが話題となり，親子のコミュニケーションにも生かされたことと思う。この活動を通して，一地球人として自分たちにできることは何か感じ取った有意義な学習ができた。

【ごみの分別についての説明】

【親子での分別活動】

３　考　察

（１）各学年が各教科との関連を図り，単元の内容及び発展学習として環境学習を行うことができ，自然に感謝する心を育むことができた。

（２）地域の自然，人々との出会い，触れ合いなど，身近な事柄から学習することで，地に足がついた学習ができている。

（３）学校の周囲における縦割り班活動の一環として行ったクリーン作戦では，異学年との交流を図り活動ができた。

（４）ゲストティーチャーや地域サポーター，保護者の方々との活動を多く持つことにより，活動に広がりが持てた。市役所の方にもお世話になり，地域の一員としての自覚をもつきっかけとなった。

４　課　題

（１）より良い環境を創造していこうとする実践的な態度の育成を図る。及び身近な自然に対する興味関心を高める手立てを考える。

（２）教科，道徳，特別活動と環境教育の関連を明確にし，各学年ごとの内容のつながりや効果的な学習形態の工夫を考える。

（３）地域や各機関との関連を図り，より充実した環境整備を図る。

環　境　教　育　の　実　践

守谷市立松前台小学校　担当　猪田　正樹

1　はじめに

本校は守谷市の北西に位置している。松前台１丁目から７丁目は住宅地であり，北側に鬼怒川が流れ，それに接して大山新田の畑や里山が点在した自然豊かな地域がある。また，大山公園などの自然を生かした公園もあり，落ち着いた環境の中で児童の教育活動がすすめられている。

2　環境教育の目標

○　身近な地域の自然や教育力を生かしながら，体験活動を通して環境への関心を高める。
○　自分と環境との関わりについて考え，環境保全に関する知識と態度を育てる。
○　美化活動，奉仕活動への積極的な参加を通して，環境を考え良くしていく実践力を育てる。

3　本年度の実践

（１）美化活動

①　清掃活動

・無言清掃への取り組み（マスクを着用　時間いっぱい）
・縦割り班での清掃（にこにこタイム　毎月第１第２水曜日）
・朝のボランティア清掃（歩道などの落ち葉はき）

３年生の育てたひまわり

②　委員会活動

・飼育・栽培委員会の花の栽培（土づくり，花植え，水やり，除草などの日常活動）
・守谷市公園等の里親事業への参加（街路樹への花の植え付け，除草，水やり）
・ボランティア委員会のリサイクル活動（ペットボトルキャップの回収　緑の羽募金活動）

（２）学習活動

学年	教科・領域	学習活動における取り組み
１年	生活	○　花の栽培（あさがお・チューリップ・クロッカス） ○　落花生，かぼちゃの栽培 ○　木の葉，木の実で作品作り，あさがおのつるでリース作り ○　大山公園での虫や木の観察（春・夏・秋・冬）
２年	生活	○　野菜の栽培 （ミニトマト ※１人一鉢，なす，ピーマン，かぼちゃ，オクラ　など） ○　町たんけん（地域の商店・病院など）
３年	理科 総合 社会	○　花・野菜の栽培と観察（ホウセンカ・ひまわり・ホウセンカ・枝豆 キャベツ・フウセンカズラ・サルビア） ○　「身近なこん虫についてしらべよう」での調べ学習，レポートまとめ ○　「学校の周りの自然や風景に目をむけよう」での町たんけん

学年	教科・領域	学習活動における取り組み
4年	社会 総合 理科	○　守谷上下水道事務所見学（守谷市の下水の浄化） ○　常総環境センター見学（守谷市のごみの処理とリサイクルの取り組み） ○　「キッズミッション～自分の生活を見つめ直そう～」でのエコ活動チャレンジ（子ども向け環境実践プログラムへの参加） ○　湖上体験への参加（霞ヶ浦の水質やその保全のための取り組み） ○　ツルレイシの栽培（グリーンカーテン作り）
5年	総合 国語 社会	○　米の栽培（学校観察園と立沢の里山での米作り体験） ○　「森林のはたらき」（森林と自分たちの生活とのかかわり） ○　環境問題，環境保全の調べ学習
6年	理科 社会 算数	○　「生き物の環境」地球の環境について調べ学習 ○　「世界の未来と日本の役割」の学習 ○　「わくわく算数ミュージアム」の学習（環境と福祉のフロア）

２年生　町たんけん

４年生　霞ヶ浦湖上体験

５年生　里山米作り体験

4　成果

○　地域の自然や公園，立沢の里山の環境を生かした活動をすすめ，環境への関心を高めることができた。

○　常総環境センター，守谷上下水道事務所見学，霞ヶ浦湖体験などで，専門的で充実した活動を行い，環境保全に関する知識と態度を育てることができた。また，高学年では，理科や社会の学習を通して環境を守っていくことが世界の目標になっていることを学ぶことができた。

○　日常の美化活動で，無言清掃の取組を学校全体ですすめ，実践力を育てることができた。

5　今後の課題

○　教科，領域，特別活動の中で環境教育の位置付けをし，それらが相互に結び付くようにしていく。

○　児童の体験活動やゲストティーチャーを招いた学習などを今後も多く取り入れていく。

環境教育の実践

守谷市立松ケ丘小学校　担当　鈴木ひろみ

1　はじめに

環境教育の推進は，守谷市学校教育プラン「ニュージェネレーションプラン」の一つの柱として，子どもたちの自然に対しての感受性を豊かにし，環境意識を高め，よりよい環境を創造しようという実践的態度を育てることを目標としている。本市の中で，住宅地に位置し，自然とのふれあいが少ない本校ではあるが，「感即動」を学校経営方針の重点に位置づけて，自然が私たちに与えてくれる感動を大切に，教職員としての専門性を生かしてさまざまな実践をすすめている。

2　実践

（1）　各学年の実践

学年	教科・領域	学　習　活　動
1年	生　活科	・５月の連休明けに，あさがおの一人一鉢栽培と観察をした。土作りや植え方の方法がわかり，種を植え観察することができた。成長には水が必要なのが１年生にもわかった。観察園で,おしろい花・ふうせんかずら・マリーゴールド・ひまわりの栽培を行った。 ・公園探検で季節の移り変わりを観察し,虫取りとどんぐり拾いをした。
2年	生　活科	・学校周辺や校庭で,季節ごとに花や木,生き物を観察した。 ・一人一人が自分で選んだ野菜の栽培を行い,定期的に観察や記録をした。 ・お店探検の際に,学校近辺のいくつかの公園に立ち寄り,秋を感じることができ,季節の移り変わりに気づくことができた。
3年	社　会科	・スーパーマーケットの学習で,スーパーマーケットではリサイクルボックスを設置しレジ袋を使わないようにしていること，生ゴミへの取り組みを学んだ。 ・「みるく館」見学では，ゴミの活用法を学んだ。また，容器も工場で作り，運搬の際には，廃棄ガスを出さないようにしていることも学んだ。 ・給食で使用したものも,分別して捨てることを徹底して指導している。
4年	社　会科	・上下水道事務所の見学を通して，利根川の地下からの水を使っていることや汚水をきれいにして川に戻すことを知り，環境を守ることの大切さを学んだ。 ・環境センターを見学して，毎日出るゴミの処理の仕方や分別の方法を学び,センターの方の話を聞くことで，ゴミを減らす努力をしていこうとする意識が芽生えてきた。
5年	国語 理科	・「森林のおくりもの」を学習し,森林を守ることは,自分たちの生活環境を守ることであり,森林を大切にしなければならないことが分かった。 ・「流れる水のはたらき」の学習から，大雨が降った時の被害の大きさや防災についての意識を高めることができた。 ・学年オープンで，フナ・タナゴ・メダカ・コイ・モロコ等を飼育している。

６年	理科 社会	・人の生活と自然環境の関わりや環境汚染のメカニズムを学習し，現在の地球のようすを科学的に学んだ。 ・世界の中で温暖化や環境汚染（中国の大気汚染やブラジルでの森林伐採など）が進行していることを学び，日本が，周りの国々と共存しながら平和な国をつくっていかなければならないことを学んだ。
特別支援学級	校内合同学習	・畑で，夏野菜（ナス・キュウリ・トマト・いんげん・ピーマン・さつまいも・ポップコーンなど）を栽培し，観察を行った。 ・昨年仕込んだ味噌をあけ全教職員に味見をしてもらった。 ・今年度も地場の大豆や無農薬栽培の大豆を使って味噌づくりを行った。 ・今年もバケツ稲の栽培を行い，お米を少し収穫した。 ・５年前にどんぐりから芽の出た苗を植え育てている「どんぐり林」の中の１本が栗の木で，収穫できたことを紹介する掲示を行った。

＊初めて実った栗の実
＊全国的な「巻心を集める運動」に参加

＊観察池（冬の寒い朝，凍った池に児童はびっくり）

（２）学校全体での取り組み

創立２０周年を記念して作られた観察池には，コイ・フナ・タナゴ・メダカ・ドジョウなどの水性動物を放ち，日頃，なかなか観察ができない児童が興味深く見ている。また，初めての取り組みとして，ニチバン主催「巻心ＥＣＯプロジェクト」に参加し，家庭の協力を得て，段ボールいっぱいの巻心を集めることができた。児童の主体的な活動として，「ボランティア委員会」が，ペットボトルのチャップ集めや「緑の羽募金」を行った。緑を増やすことが地球環境に与える影響を学習し，昇降口で宣伝活動をして多くの募金を集めた。

３　考察と課題

今年度も，畑で草花や野菜を育てる学習を行い，児童は身近に観察し収穫することができた。家庭で動植物に触れる体験が少ない児童が多いので，学校教育が果たす役割はより大きいと実感している。

教科ごとに各学年ともさまざまな環境に関する学習をしているが，現代の環境問題を身近に感じ，将来を児童なりに展望することが，引き続き今後の課題である。

環 境 教 育 の 実 践

守谷市立守谷中学校　担当　海老原　孝一

1　はじめに

私たちを取り巻く環境は目まぐるしいはやさで変わり，私たちの生活する守谷市も例外ではない。コンクリート化が進む中，環境の中で変わらない大切さ，変わることでの住みやすさを肌で感じている。

本校では，「よりよい環境を求めて，未来を切り開く生徒の育成～生徒自ら学び，考え，行動する環境教育～」をテーマに，環境に目を向けた生徒の育成に努めていきたいと考えている。

2　実践

(1)　校内緑化運動

園芸委員会を中心にプランターの設置(写真①)，グリーンカーテンの作成(写真②)を行っている。

昨年はゴーヤをグリーンカーテンに用いたが，今年はアサガオを使用した。ツルの成長に関してはどちらも旺盛で育てるのが簡単だが，花が咲くアサガオの方が生徒たちのやる気に繋がると考え採用した。日中の水やりだけでなく，夏季休業中の水やりも生徒と職員の当番制にした。冬季休業前は，来年度に向けて種子の回収を行い計画的な準備を行っている。今後も継続的に活動を行っていく予定である。

＜写真①＞

＜写真②＞

(2)　リサイクル活動

福祉委員会を中心にペットボトルのキャップを回収している。家庭でも行える環境対策として，全生徒への呼び掛けを行なっている。また，いらなくなった靴をアフリカに送る「スマイル・アフリカプロジェクト」にも参加し，リサイクルの大切さを実感できる活動として取り組んでいる。(写真④)(写真⑤)

＜写真④＞

＜写真⑤＞

(3)　食育

給食委員会を中心に資源ゴミの分別を行っている。(写真⑥)給食後のストローや牛乳パックの分別は私たちでもできる身近な環境保全である。このような毎日の活動が小さな一歩の積み重ねになり，環境破壊を食い止める大きな手だてに繋がることを学ばせたい。また，食べ残し調査を実施している。給食を残さず食べることが健康な体をつくるとともに，ゴミの量も減らせることなどを紹介し，食育から問題を考える一助としたい。

＜写真⑥＞

(4)　夏季休業中の課題

今年度は夏季休業中の課題に「環境フォト・コンテスト」を取り入れることで，今以上に自分達の住む守谷市の環境問題に目を向け，自ら課題を探し行動できる生徒の育成に努めた。学校団体賞(写真⑦)と個人賞(写真⑧)を受賞し，結果を残した。今後も継続して取り組みたい。

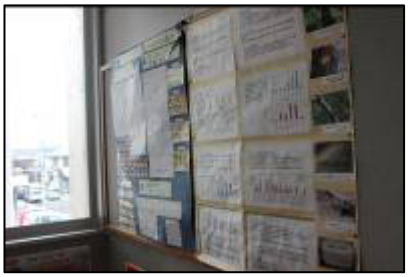
＜写真⑦＞

＜写真⑧入賞作品＞

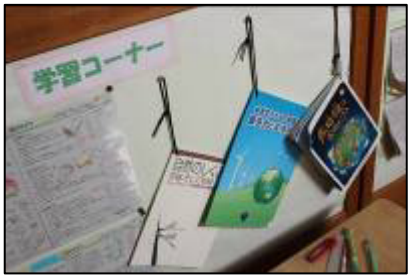
(5)　教科及び掲示物

環境問題に視点をおいた題材が各教科にあり，それぞれ環境問題との関連を図るよう努めている。理科においては，「植物の生活と種類」や「自然と人間」など環境と密接に関わる単元が多い。それらの授業を通して知識を得るだけでなく，生徒が発展的な学習を行えるように，理科室前には様々な掲示物を用意し，掲示資料に誰もがふれられるように配慮した。(写真⑨)(写真⑩)(写真⑪)

＜写真⑨＞



＜写真⑩＞



＜写真⑪＞

3　考察

様々な活動を通して，環境に目を向けた生徒の育成が図られている。それは生徒の活動の様子や表情から読み取れる。園芸委員会や生活委員会など，活動中の生徒たちの表情は笑顔に溢れている。また，廊下や教室内の掲示物は破損が少なく，生徒たちが大切に扱っていることからも伺える。食育活動で実施しているゴミの分別は，日頃の日常生活でも生かされ，教室のゴミ箱も積極的に分別している生徒の姿が見られる。日々の積み重ねを大切にしながら活動を継続していきたい。

4　課題

「よりよい環境を求めて，未来を切り開く生徒の育成～生徒自ら学び，考え，行動する環境教育～」というテーマのもと本年度の活動を実施したが，学校全体の活動へと広げることが課題としてあげられる。また，これらの活動を行ったことによる結果を目に見える形で生徒に報告し，すばらしい活動をしていると実感させたい。さらに，様々な活動を HP 等で紹介し，家庭・地域との連携協力を図っていきたい。

環　境　教　育　の　実　践

守谷市立愛宕学校　担当　野島由樹子

1　はじめに

本校には野鳥の森という自然豊かな森が隣接しており，全生徒が野鳥の森少年団を結成し，守谷市観光協会と市民グループ「守谷にエコミュージアムをつくる会」と協力しながら環境整備や清掃などのボランティア活動を行っている。今年度は，野鳥の森の散策路が完成し，水辺広場で行われた開園式に野鳥の森少年団の代表者が参加した。この環境を積極的に活用しながら，野鳥の森少年団の一員としての意識を高め，教育活動の全域において，環境問題や環境保全について学ぶ機会を多くして取り組み，環境を大切にする心を育成した。

6月9日　野鳥の森開園式

2　実践

（1）　理科

・「植物の生活と種類」１学年

「植物の分類」の学習を通して，生物界の多様性を知ることができた。具体的には隣接する野鳥の森を教材として観察を行い，様々な植物の観察を行うとともに，多様な生物が森を中心に生活している様子を学ぶことができた。

・「動物の生活と種類」２学年

「動物の分類」の学習を通して，生物の環境に適したからだのつくりを知ることができた。具体的には隣接する野鳥の森を教材として観察を行い，様々な動物の体のつくりや生活する環境の様子を学ぶことができた。

10月　野鳥の森の生物調査

（2）　社会科

・「国際問題とわたしたち」３学年

地球上で起こっている様々な環境問題について学んだ後，地球温暖化や大気汚染などの環境問題や世界中で行われている対策について話し合いを行い，環境問題について理解を深めた。

（3）　技術・家庭科

・「私たちの食生活」１学年

健康に良い食習慣を考えた献立作成において，地産地消を心掛けることと食材を無駄なく使うことを考えながら献立をたてた。調理実習では，ゴミの分別に「エコゴミ箱」を使用したり，川への影響を考えて洗剤を薄めに使うことを心がけたりして活動できた。

・「技術とわたしたちの生活」１学年

製品の設計・政策の学習において，限りある資源を無駄なく有効に使うために設計の仕方や製作の仕方について学習した。杉の間伐採などを利用し，リサイクルを心がけた作品の製作を行った。

・「わたしたちの生活とエネルギー」２学年

自然界の様々なエネルギー資源を生活に利用していることや，その資源の枯渇や地球温暖化，環境汚染などの課題が多く生まれていることを学習した。その後，エネルギー変換に関

する技術の理解を深め，エネルギーの有効活用について学んだ。

（４） 総合的な学習の時間　１学年

・「守谷の魅力を発見しよう」

１学年の生徒の３分の1の生徒は守谷市の環境や野鳥の森について調べた。日常生活や自然について問題を見いだし，情報収集を行った。また，地域の人から環境についての話を聞き，環境について興味を高める学習活動をすることができた。具体的には，様々な生物の種類や住みやすい環境を調べたり，空気の汚れ具合をマツの葉で調べたりすることができた。

6月　貴重な野鳥の種類について学ぶ

（５） 特別活動

・ 生徒会活動

これまで，ペットボトルキャップの蓋やインクカートリッジ，ベルマークやアルミ缶の回収について呼びかけを行い，回収をしてきた。生徒会が全校集会やポスターを作成して呼びかけした結果，昨年度より回収量が増えている。また，緑の羽根募金を活用し，校内の花壇に季節に合わせた植物を育てる環境を作り，園芸委員会を中心に栽培を行うことができた。

5月21日エコキャップを市役所に届ける

・ 野鳥の森でのボランティア活動

守谷市観光協会と市民グループ「守谷にエコミュージアムをつくる会」と協力して開通させた遊歩道の清掃活動を計画し，ボランティア活動を実施した。秋に行われた清掃活動では，昨年よりも多い１５０人近くの生徒が参加した。グループに分かれて活動し，各グループには「守谷にエコミュージアムをつくる会」の方が入り，清掃活動や遊歩道と環境を保全するために木くずを撒く活動をしながら野鳥の森の生物についての説明をして頂いた。森の保全についての意識を一層高めることができた。

12月7日　野鳥の森清掃

３　考察・課題

昨年と同様，野鳥の森に隣接している恵まれた環境の中で，多くの自然に触れ，保全を体験する機会もあり，身近なところで自然環境について直接体験する機会が多くもてた。また，各教科・領域で行う環境に関する学習により，広い視野で自然環境を捉える力が身につき，資源のリサイクルに積極的に取り組むことで，自然を守るためにできることを考えて行動に移すことができた。来年度は，野鳥の森の環境状況を把握して，清掃活動の回数を増やしたり，季節による自然環境の変化を体験したりするなど，環境を大切にする活動を，全教科領域で積極的な活動を続けていきたい。

環　境　教　育　の　実　践

守谷市立御所ケ丘中学校　　担当　後藤早苗

１　はじめに

環境問題がよい方向に向かっているとは思えない。夏，４０度を記録した猛暑，身近な場所での竜巻，１０月下旬になってからの台風被害。テレビ画面を通してであるが修学旅行で馴染みのある京都・嵐山の渡月橋が濁流に呑み込まれた映像は初めて目にした。このような洪水や高温の被害を見るにつけ地球の温暖化が進行し，環境問題がますます深刻になっていると感じる。また，弾丸低気圧の影響による大雪にも驚いたこの冬であった。東日本大震災後しばらくは，節電，節水意識が高まったが，それも今はあまり声高に言われなくなった。このような中で，本校では，これまで通り環境に対する関心をもち，よりよい環境を維持するために継続して取り組む実践的な態度と，実行力を育成することを目標として教育活動をおこなった。

２　実践

（１）学習活動における取り組み

ア　理科

・「自然と人間」「科学技術と人間生活」（３年）

身近なニュースで確認しながら自然の災害について理解した。また，エネルギー問題をとらえて，エネルギーの作り方の長所や短所を知り未来に向けてのエネルギー作りを考えた。更に，食物連鎖，食物を通しての食物網，物質の循環について学習した。地球上には人間をはじめたくさんの生物が存在し，密接に関わって生きていることや人間の便利な生活が自然や他の生物の環境に多大な影響を及ぼしていることも理解した。

イ　家庭科

・「被服」（２年）

２年生技術･家庭科における環境教育では資源の有効利用の観点から使わなくなったものを再利用して新たな製品に作り直しをする活動に取り組んだ。この活動はこれまでにも継続して取り組んできたが，廃棄物を出さない，再利用する，再資源化するという資源循環社会を考える上で効果的であると思われる。

ウ　国語科

・「オオカミを見る目」（１年）　・「絶滅の意味」（３年）

ヨーロッパと日本のオオカミの捉え方が前者は「悪」，後者は「神」と違いがあった。「神」と敬われた日本のオオカミが何故に駆除の対象となり，絶滅したかについて学んだ。その中で野生生物に対する考え方が，その社会や状況によって異なり変化するということを知った。また，このことがオオカミの絶滅に強い影響をあたえたことも理解した。３年の「絶滅の意味」では過去の絶滅は環境変化が原因であったが現代の絶滅は生物の利用のし過ぎ，開発による環境破壊，移入種の繁殖の影響など，全て人間が引き起こしていることを理解した。人間を含む個々の生物は生態系に支えられ多大な恩恵を受けている。だからこそ，生物の絶滅の問題が人間に影響のないものと安易に見過ごしてはならないのだと気付くことができた。

（２）部活動（科学研究部）・特別活動の取り組み

・急速に都市化が進む守谷市の大気環境を知るために，守谷市郊外に生育しているナミガタウメノキゴケを用いて調査・評価方法を開発し，大気環境との相関関係を明らかにする研究を継続している。これまでにその成果が認められ，さまざまな賞に浴したが，それに安んじることなく一層努力している。毎年，文化祭で研究成果を発表し，生徒の環境問題の意識化に寄与している。特別活動では生徒会・緑化委員会などが中心となり校舎内外の環境整備に取り組んでいる。通学路の花植えも例年通り取り組むことができた。

３　考察

各教科，特別活動，部活動や身近な自然現象・自然災害などを通し，環境問題が本当に身近な課題であることを実感した。だが，環境問題は実感にとどまっていては解決にならない。持続可能な社会を目指す意味でも，環境問題に対するさらなる意欲や心情の育成と問題解決能力の育成が重要であると考える。

４　課題

環境問題がますます深刻な問題となっている今日，より一層環境に対する関心，問題解決に向けて活動するための知識，技能，実行力が求められる。総合的な学習の時間が導入された当初はこぞって環境教育の実践に取り組んだが，現在は減少傾向にあると思われる。震災後，電力，エネルギーの問題が取り沙汰されている折，環境問題をどう位置づけ，教科間で連携し，意識して実行力の育成を図るかが課題である。

環境教育の実践

守谷市立けやき台中学校　担当　古谷　淳一

1　はじめに

本校での環境教育では，昨年度に引き続き，環境問題についての意識を高めることが重要であると考え，下記の３つの視点を掲げて実践してきた。

『環境教育３つの視点』

○　さまざまな環境問題の現状を知り，環境問題への関心を高める。

○　自然環境のしくみについて理解を深め，地球環境を大切にしていこうとする意識を高める。

○　自分たちにもできる環境保全策を考え，実践していこうとする態度を育てる。

本年度も，各教科での実践を中心に，道徳，生徒会活動等の特別活動でも環境問題に取り組んだ。

2　実践

（1）各教科における取り組み

【国語】

２年　「情報検索で開ける世界」で，バイオエタノールに関する２つの記事を読んで考える学習の中で，ガソリンに替わる自動車用燃料として注目を集めていることと，食料価格の高騰を招き，開発途上国の食糧問題を深刻化させているという現実を知り，環境問題の二面性について考えを深め，環境問題への関心を高めた。

３年　「絶滅の意味」で，トキやリョコウバトの絶滅という事実から，絶滅を引き起こしてきた人間社会の在り方と，生態系の維持との関係について，自分の考えをまとめる学習の中で，自然環境のしくみについて理解を深めた。

【社会】

３年　「わたしたちのくらしと経済」で，日本の主な公害の学習を通し，発生の防止だけでなく地球環境問題への関心を高め、循環型社会の実現を目指して努力する態度を育てた。

【理科】

１・２年

「夏休みの自由研究」では，身近な環境問題に着目して研究を進める生徒が多く，特に紫外線の影響について昨年に引き続き継続研究を続けた生徒が高い評価を受けた。

「夏休みの自由研究」の展示

【英語】

１年　「観光地から」の読み物題材で，カナダのヨセミテ自然公園の環境問題について考えた。

２年　「おーい，出てこい」の読み物題材で，ＳＦ小説を舞台にこれからのゴミ問題についてふれ，問題意識をもつことができた。

【技術・家庭】

２年　「わたしたちの消費生活と環境」の題材で，持続可能な社会のための技術を学び，リデュース，リユース，リサイクルの３Ｒを推進する大切さを理解し，環境に優しい生活の推進を進めると共に，循環型社会の推進，グリーンコンシューマーの育成を通して，環境を守ることの実践を行う態度を育てた。

（２）道徳・特別活動における取り組み

【道徳】

１年　「マータイさんといっしょに私たちの地球を考えよう」という題材では，ハチドリの言葉やマータイさんの行動を通し，自然の素晴らしさと地球に生きる仲間の連帯の素晴らしさにふれ，「できることから始める」というマータイさんのメッセージから，自分たちにもできる環境保全策ついて考えを深めた。

２年　「ツバルー海抜１メートルの島国ー」という題材では，地球温暖化，自然との共生について話し合い，自然環境を守り自然と共生していくために何ができるかを考え，実践していこうとする態度を育てた。

３年　「環境ホルモンを知っていますか？」という題材では，人間が自然界にさまざまな化学物質をたれ流した結果，野生動物を大きな危険にさらしていることを知り，自然界という環境の中で生きていく人間の存在に対する意識を高めた。

【特別活動】

生徒会では，中央委員やボランティア委員による始業前の学校周辺の清掃活動を行った。園芸委員による花壇の植え替え・水かけも環境教育の実践の１つといえる。

学校周辺の清掃活動

園芸委員による花壇づくり

３　考察

環境問題というと公害など地域における問題として取り上げられることが多かったが，現在では地球全体の問題としてとらえられることが多くなってきた。このことは個人で環境問題に取り組むことの大切さが増してきたということでもある。つまり一人一人の小さな取り組みが地球全体に影響を与えることを認識することが重要になってきたわけである。本校の環境教育では，この「小さな実践の積み重ね」を重視してきた。低炭素社会・循環型社会・持続可能な社会という目指すべき姿に対し，中学生としてできることは何かを考えさせ，小さいことから実践していく態度を育てることを各教科・領域で推進している。この活動を今後も継続することにより，本校の環境教育を発展させていきたいと考えている。

４　課題

実際に自然環境にふれる機会が少ない本校では，自然界の生物，特に動物との接触は特に少ない。そのためか理科室のメダカを授業のたびにながめていく生徒が多い。そこで環境に対する疑問や気づきを大切にし，身近な事象を推論し，科学的に分析し，自らの考えを表現していく態度を育てることこそ，本校が目指す環境教育ではないだろうか。そこから環境保全のためにどのような行動をとるべきか考え，実践していくことに結びつけたい。花壇やフラワーポットの担当者だけの頑張りだけでなく，校内全体での取り組みも大切にしていきたい。

また，各教科ごとにさまざまな環境教育の教材を取り扱っているが，教科ごとに別々に授業での実践を行っているのが現状で，学校全体での取り組みが計画的になされているとはいえない。次年度以降の課題として，教科の枠を超えて環境問題に取り組んでいける体制づくりと計画的な実践が大切なことだと考えている。そのためにも，校内での環境教育担当者の確認と各校の環境教育担当者の話し合いの場などが設けられたらよいのではなかろうか。